

令和4年度 学校経営方針

墨田区立文花中学校長 稲垣 吉実

今年度の学校経営目標

**『チーム文花中として、文武両道を実践し
社会に貢献できる生徒、生徒の自主性を伸ばす学校』を目指す。**

1 教育目標・育てたい生徒像、目指す学校像、目指す教師像

【教育目標】

21世紀を担う社会の一員として、心身共に健康で、これからの時代において、希望をもって自分の人生を切り拓いていく生徒の育成を目指し、次の目標を設定する。

- 豊かな心をそなえ、自ら学び・考え、健康で安全な生活を営み、たくましく生きる生徒を育成する。

(1) 育てたい生徒像（知・徳・体のバランスのとれた生徒を育成するために）

- ・ 毎日の授業を大切にし、自ら計画し、進んで学びに向かう生徒
- ・ 人権を尊重し、思いやりをもって互いに協力しあい、自他を大切にする生徒
- ・ 規範意識を身につけ、責任を果たし、社会に貢献できる生徒
- ・ 文武両道の精神を持ち、心身共に健康で何事にも粘り強く取り組む生徒

(2) 目指す学校像（誰もが誇りに思う学校にするために）

- ・ 「わかる」「楽しい」「できる」が実感でき、生徒の自主的な学習意欲を育む学校
- ・ ICT機器や一人一台のタブレット端末を効果的に活用したICT教育を推進する学校
- ・ 人権を尊重し、夜間学級との交流等、異文化理解を積極的に推進する学校
- ・ チーム文花中として学校・家庭・地域が一つになって共に歩む学校

(3) 目指す教師像（生徒や保護者、同僚や地域の人から信頼される教師になるために）

- ・ 生徒に対する教育的愛情と、教職に対する情熱と使命感を持っている教師
- ・ 豊かな感性を持ち、明朗かつ健康で、人間的魅力にあふれている教師
- ・ 高い「授業力」をもち、生徒に確かな学力をつけることができる教師
- ・ 社会的良識と自ら学ぶ意欲を持ち、組織人としての責任感、協調性を有する教師

2 目標達成のための基本方針（教育課程の確実な実施にこだわる！）

(1) 豊かな心を育てる。

（人権教育の充実。自尊感情、自己肯定感を高める。道徳教育の充実。教育相談機能の充実。伝統・文化の尊重と郷土愛。国際社会の一員としての社会に貢献する態度の育成。）

(2) 学力の向上および自ら、学び考える生徒を育てる。

（主体的・対話的で深い学びの実現。指導と評価の一体化の推進。学びに向かう力の滋養。総合的な学習の時間の充実。タブレット端末の効果的活用。研究協力校としての取組。）

(3) 健康で安全な生活を営み、たくましく生きる生徒を育てる。

（新型コロナウイルス感染症防止対策の徹底。継続的な体力向上。防災教育、安全教育の充実。特別支援教育の充実。キャリアパスポートの取組。オリパラ教育のレガシーとしての継承。）

(4) 信頼される学校づくりを行う。

（幼保小中一貫教育の充実。校内外研修と組織的なOJTの推進。開かれた学校づくりのための地域人材の活用および地域との連携・協働。家庭状況の把握と関係諸機関との連携。教員の働き方改革の推奨。「すみだタブレットの日」授業公開。）

3 指導の重点

(1) 組織的な活動を通しての学校づくり

- ① 一人一人の教員が積極的に経営参加意識を持つことによって、担当者、主任、主幹、副校長、校長が「報告、連絡、相談（指示・指導）」でつながるラインの強化を図る。さらに、それぞれが分担を果たす中、互いに補完し合える体制を整え、組織体としての力量を高める。（分掌組織の明確化）（OJTの推進）
- ② 教職員相互の意思の疎通を図り、重要度・優先順位・指導方法等、共通理解を持って指導・実践を行う。
- ③ 教育目標達成のため、より計画的な学校運営に努め、質の高い実践を行う。**研究協力校2年目の取組、発表を全教員で共通理解を持って行う。**

(2) 分かる授業・確かな学力を育む授業づくり

- ① 「授業で勝負！」を合言葉に、生徒をしっかりと見つめ、専門性を発揮し、創造的な授業を展開する。綿密な授業・評価計画に基づき、明確な授業プランによる、生徒にとって分かりやすい授業（主体的・対話的で深い学び）の実践を行う。また、一単位時間で「前時の確認・本時のめあての掲示・まとめ・適用問題」などの授業スタイルで「指導と評価の一体化」を推進する
- ② たえず生徒理解に努め、一人一人を生かす指導を心がけるとともに、基礎・基本の徹底を図る。（家庭学習の習慣化、放課後学習教室の計画的な実施）**タブレット端末の活用**
- ③ **個に応じた、きめ細かい指導の充実**を図るため、数学・英語において少人数指導を行う。
- ④ 個性を尊重し、認め励ます「ほめて育てる、自信を育てる」指導を通して、さらにできた」という達成感を充実させる工夫を通して、生徒の自己肯定感を育てる。
- ⑤ 授業力（授業構成力、教材開発力、指導技術、集団統率力、使命感、情熱、感性）の向上を目指し、授業公開を積極的に行うとともに、校内研修の充実を図る。
- ⑥ 指導教諭の授業参観や、年3回の**授業観察期間**を活用することで、授業改善に努める。
- ⑦ 常に生徒の学びたいという意欲を引き出すために、本校の「わかる授業」「学力が向上する授業」**実践集の改善**を行い活用する。
- ⑧ **GIGAスクール構想を推進し、一人一台のタブレット端末をどの教科等でも学びを深めるために効果的に活用する。**また、**情報モラル等の教育の推進**を図るとともに、高度情報化社会に生きる生徒の育成を目指し、ICT教育の推進を図る。
- ⑨ 「総合的な学習の時間」は、「いのち」「生き方」「読み取る力」を共通のテーマとして、「生命尊重の精神」「思いやりの心」「思考力・判断力」「読解力」「望ましい勤労観・職業観」の資質・能力を育てる。また、**STEAM教育の視点を持って教科等横断的な探究型の活動を行う。**国際理解教育、SDGs目標達成への意識を高める。
- ⑩ 年2回の生徒の「授業アンケート」を活用し、授業改善を図る。
- ⑪ 東京2020オリンピック・パラリンピック教育の**レガシーの継承**を図る。
- ⑫ **がん教育、租税教室、主権者教育等の教育の推進**を図る。

(3) 基本的な生活習慣の定着と豊かな人間関係を育成する生活指導

- ① すべての教育活動を通して、偏見や差別をなくし、自他の生命、人権を尊重する教育を推進する。
- ② 教師が率先垂範することにより、挨拶や身だしなみ、時間や約束を守る指導を充実し、公私の区別や責任、ルールへの遵守についても理解・実践できる生徒の育成を図る。
- ③ **相談しやすい体制や環境を作り、教育相談を通して、生徒一人一人の心のケアの充実**を図る。スクールカウンセラーや外部相談機関との連携や活用を図る。
- ④ 教職員が生徒への関わりを大切にし、一人一人の生徒の変化に気づく感性を高める。
- ⑤ いじめ、問題行動へは、早期対応・早期指導を全教職員がそれぞれの持ち味を生かし、共同歩調で当たる。**また生徒会活動による自主的な活動を推進する。**
- ⑥ 保護者・地域・関係諸機関との連携を密にし、協力して指導にあたる。
- ⑦ **薬物乱用防止や多機能携帯電話端末、SNSなどのトラブル防止に関するセーフティ教室を実施し生徒や家庭に対しての啓発**を図る。

(4) 互いを認め、尊重し合う学級づくり

- ① 学年・学級は学校教育活動の母体である。学年・学級経営が学校の教育活動の成否の鍵をにぎっていることを自覚し、組織として経営にあたる。**集団活動を通して、「心の居場所づくり」や「絆づくり」を行う。**
- ② いじめをなくし、一人一人を生かし、伸ばしていくためには学級に明るく、お互いを認

める雰囲気と規律がなければならない。そのためには、教師自身の温かさ、適切な指導と管理が必要である。たくさんの関わり、素晴らしい関わりを生徒は求めている。教師が積極的に生徒一人一人の良さを見つけ・認め・励まし・伸ばす指導に努める。

- ③ 常に目標を持ち、夢や希望を膨らませ、生き方を学ぶ3年間を見通した進路指導を実践する。(キャリア教育の推進)

(5) 自主的な活動の促進と感動ある学校行事の創造。

- ① 生徒会活動及び部活動をはじめとして、自治的な活動を推進し、自主性や主体性を育成する中で、自己肯定感を高める。
- ② 地域清掃やあいさつ運動などボランティア活動を行い、社会の一員としての精神を育成する。
- ③ 「運動会」「文化祭」をはじめとする学校行事の充実を図り、所属感、連帯感を育み、文中生としての誇りを持たせる。
- ④ 夜間学級の生徒との交流等の異文化理解教育の充実を図り、国際理解教育を推進する。

(6) 良い環境で豊かな心を育てる学校づくり。(教師の率先垂範：後ろ姿で育てる指導)

- ① 学校での生徒の安全を第一に考え、安全教育の徹底を図る。
- ② 「環境が人をつくる。その環境は人がつくる。」という認識の下、物的環境、人的環境づくり(言語環境の整備：教師の言葉遣いからさん・君付け)に努める。
- ③ 心の教育を重視し、道徳の時間をはじめとするあらゆる教育活動を通して、心を育てる指導に努める。
- ④ 校舎内外の美化・整備に師弟同行であたる。(1日の始まりを気持ちよく)
- ⑤ 明るい挨拶、正しい言葉を励行する。
- ⑥ 勤労と奉仕の心を育てる。
- ⑦ 道徳授業地区公開講座の充実を図り、保護者・地域住民とともに生徒の道徳心の向上を目指す。

(7) 保護者・地域に開かれた学校づくり。

- ① 家庭・地域との連携を図り、信頼関係を深め、共同歩調で生徒を指導する学校を目指す。
- ② 学校の教育活動を保護者・地域に広く公開し、協力を得る。(COCOO・HP等)
- ③ 地域社会や企業で活躍している方を積極的に学校に招き、学校教育の活性化と指導法の充実を図る。
- ④ 「地域ふれあい祭り」「地域音楽祭」等、育成委員会主催の行事に積極的に関わり、その一翼を担う。
- ⑤ 地域にできた2大学との連携を図り、進路指導等に役立てる。
- ⑥ 学校運営連絡協議会を活用し、地域との連携を図る。
- ⑦ 「外部評価」「保護者アンケート」を活用し学校教育の充実・改善を図る。

(8) 教員の資質・能力の向上と組織機能の強化。

- ① 常に教える「プロ」として、授業力・生徒理解力・危機管理能力等、自らの資質・能力の向上に努める。
- ② ICTを活用した授業研究等、生徒の意欲・関心を引きだし、引き続き新学習指導要領に向けた校内研修を計画・実践する。
- ③ キャリアプランによる計画的な研修への参加を推進する。(指導教諭の授業参観)
- ④ 公務員としての服務を厳守し、使命を全うする。尊敬される教職員を目指す。
(天網恢々疎にして漏らさず)問題を起こしたときの影響を考えましょう。
- ⑤ 働き方改革を視野に入れ、組織で効率よく仕事を行うように努める。
(会議は1時間。8時までには下校。計画的な年休取得。)

(9) 文花中ブロック幼保小中一貫教育の一層の推進。

- ① 幼保小中一貫教育担当者会を中心に15年間の教育内容を理解し、一貫性・連続性のある教育を地域の協力も得て、組織的に取り組む。
- ② 生徒会を軸とした相互に取り組む行事を設け、児童・生徒間の交流を発展させる。
- ③ 園・小・中の学校間の交流を積極的に行い、ガイダンスの機能の充実を図る。
- ④ 学校選択制において文花中を選択する生徒を増やす。

(10) 新しい生活様式による教育活動の推進。

- ① 国や都のガイドラインや「墨田区立幼稚園、小・中学校感染予防に対応した教育活動の基本方針」等に基づき新しい生活様式による教育活動を全教員で工夫する。
- ② 濃厚接触者を出さないよう、基本的な感染対策を継続する。
- ③ ICT機器等を効果的に活用して、生徒の安心・安全な学校生活や学びの保証を図る。